

復活「弁論部」 頭角めきめき

水海道一高、次々優勝3年目



全国から2万人の高校生が集まり、「文化部のイベント」と呼ばれる「全国高校総合文化祭」が6日、群馬県内で開幕する。茨城県からは今回、17部門に4校が出場。このうち、弁論部門の茨城県代表に選ばれた東立水海道一高は、3年連続の出場だ。弁論部は長く活動を休止していたが、2年前に弁論同好会として復活。県大会で連覇、全国大会優勝など快進撃を続けている。

6日開幕 総文祭でも熱弁

原動力は部長を務める落合智彦君(2年)だ。同校の入学生で新入生代表のあいさつをしたところ、堂々としていききした物言いに、前部長が目を付けた。入部して半勝。さらに同月の全国高校弁論大会でも位に入るなど、早持たせる」ことを提案し、つ題解消のため「お金に意思を闘う方法」。世界中の貧困問題文祭での演題は「貧困とし、総文祭出場を決めた。で優勝。同月の県大会も制で開かれた全国高校弁論大会そして今年5月、名古屋市々に素質は開花した。

エアトリード(公正貿易)などの必要性を強調する。

落合君は「自分の考えがつかい伝わり、人の心を動かせるような弁論がしたい」と抱負を語る。

落合君は1本の演題の原稿を仕上げるまでに10冊の本を読み、原稿を十数回書き直す。1本あたり4カ月程度かかるという。普段の活動は週1回、国語科教室で顧問

の渡辺克也教諭と、内容について議論をしたり、原稿の指摘を受けたりしている。渡辺教諭によると、弁論部は現在の校長も所属していた。統一した校長も所属していた。統一した校長も所属していた。統一した校長も所属していた。

は現在、部長を務める落合智彦君は、06年春に「休部状態」だった。だが、06年春に統一した渡辺教諭が復活を呼

顧問の先生と部員に見守られ、弁論を練習する落合智彦君(右端)は、常総市の水海道一高

びかけるという張のだすと、前部長ら当時の2年生が必し、同好会として再出発。前部長は独特の「熱い語り口」で全国高校弁論大会や県大会で優勝し、昨年8月、落合君に部長役を渡して引退した。落合君は、中学の後輩の土信田雅之君の1年生2人の勧誘に成功したが、それで部員はわずか3人。小所帯の活動が続くが、「聴衆の拍手がたまらない。全国大会でいつか人と交流でき、経験も積める」。弁論の面白さにはまっている。